



Title	<紹介>宮脇弘幸監修・前田均解説『南洋群島國語讀本』補遺
Author(s)	大田垣, 仁
Citation	語文. 2012, 99, p. 41-41
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/70898">https://hdl.handle.net/11094/70898</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

宮脇弘幸監修・前田均解説『南洋群島國語讀本』補遺

大田垣仁

本書は、南洋庁（日本が第一次世界大戦によつてドイツから獲得した南洋委任統治領を統治するためにパラオ諸島のコロール島に設置した地方官庁）が発行した『公学校國語讀本教授書』（第4次、昭和一二年）を復刻刊行したものであり、この教授書の本扉から奥付までの全ページを、原本のよごれ、やぶれ、脱落などを可能な限り修正したうえで原寸大で収録している（ちなみに、南洋庁における教科書編纂事業については作家の中島敦が一時その任についていたことがよく知られている）。

さて、本書の収録内容はつぎのとおりである。

〔本編〕南洋群島國語讀本全8巻・補遺1 収録内容一覧／

『南洋群島國語讀本』補遺刊行にあたつて（梅津彰人）／解説 南洋庁第四次教科書編纂者 梅津隼人のこと（前田均）

／凡例／公学校國語讀本教授書（第四次）／〔参考資料〕凡例／新国語読本指導後の感想（補習科用卷二）（山崎央）

既刊の『南洋群島國語讀本』（宮脇弘幸監修）については二〇〇六年十月に大空社から全八巻として復刻刊行されており、今回

復刻刊行された『公学校國語讀本教授書』は前回の刊行時には原本・資料が未発見・未発掘であつたために、復刻・刊行ができないまま「幻」になつていたものである。巻頭の梅津彰人氏（南洋

府において本書を編集した梅津隼人氏の子息）による解説によれば、今回の「補遺」発行は、前田均氏（天理大学准教授）が『公学校國語讀本教授書』の原本を発見したことによつて劇的かつ奇跡的に可能となつた、とのことである。また、梅津氏によれば、本書は、既刊の児童むけの読本とはことなり、指導者が委任統治領の非日本語母語話者に対して日本語および、当時の日本の文化や価値観を指導する『教授書』であるために、読本における教材配置の目的や意図、実際の指導にあたつてのとりあつかいかたの留意点が明確にしめされている。したがつて本書は、委任統治時代の南洋地域において、非日本語母語話者に対する「日本語」教育法（日本語の発音・表記・語彙・文法等の段階的習得についての指導法）がどのようなものであつたか、ということにとどまらず、この地域における教育実態や、国策・思想的背景をも、うきぱりにする総合的な「国語」教育についての資料となつている。

具体的には、教材となる読本には本科用と補習科用があり、複数の巻で構成される。本科の卷一から四までは、挿絵のみの指導やカタカナ、ひらがな表記による生活語彙や童話・童謡の指導が内容の中心をしめる。一方、卷五および卷六、補習科用全巻では見だしが漢字かなまじりになり、当時の国策に関連した語句や出来事に関する内容がおおく配置されるようになつていている。

（大空社、二〇一二年二月、四九四頁、一四〇〇円）

（おおたがき・さとし 本学特任研究員）